

令和5年度12月補正予算案概要 (港湾局関係部分)

【一 般 会 計】

1 歳入歳出予算補正

(1) その他物価高騰対策

1 事業 補正額 15,220 千円

指定管理施設物価高騰対策支援事業

■大さん橋国際客船ターミナル指定管理費

15,220 千円〔一般財源〕

特別高圧受電施設であり、内部空間が広く、空調のための光熱費の高騰の影響が大きい大さん橋国際客船ターミナルについて、光熱費の高騰分を支援します。

(2) その他事業の執行事業に合わせた補正

1 事業 補正額 600,000 千円

国庫補助事業の認証が当初予算に比べ増額となったことに伴い、事業費を追加します。

■大さん橋ボーディングブリッジ整備事業

600,000 千円〔国費 200,000 市債 400,000〕

大さん橋国際客船ターミナルにおけるボーディングブリッジの整備を実施します。

2 繰越明許費補正

1 事業 設定額 600,000 千円

国庫補助事業の認証増による年度途中の補正により、年度末までに必要な工期を確保できないため、繰越を行います。

■大さん橋ボーディングブリッジ整備事業

600,000 千円

大さん橋ボーディングブリッジ整備事業

1 大さん橋国際客船ターミナルのボーディングブリッジの現況

新港側



【製造年度】

平成18年度

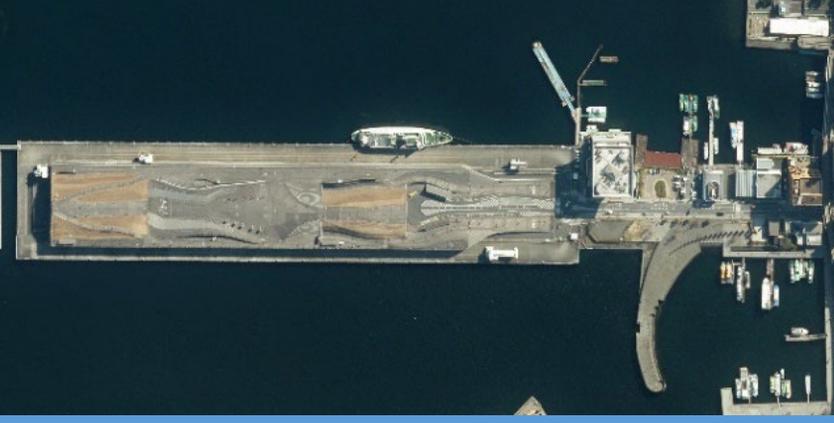
【使用船舶】

主に「飛鳥Ⅱ」

【稼働状況】

メンテナンスにより故障を回避

新港側



大さん橋国際客船
ターミナル

山下側



【製造年度】

昭和39年度（平成14年度改修）

【使用船舶】

ダイヤモンド・プリンセス
セレブリティプレミアム 等

【稼働状況】

製造後59年、改修後21年となり、老朽化が著しく、故障が頻発
⇒ 今回の補正予算により更新

山下側

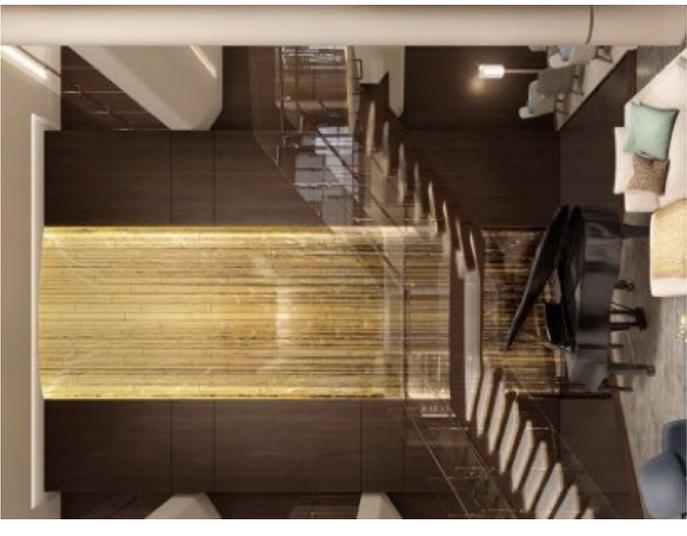
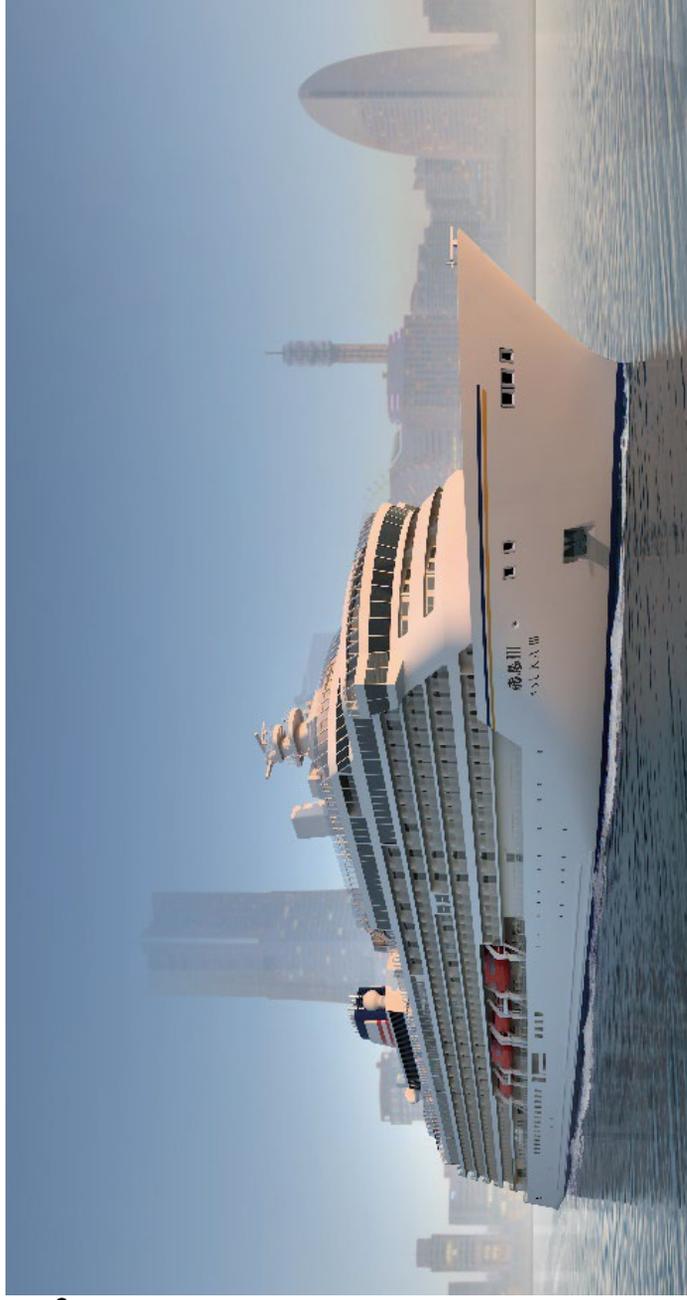
大さん橋ボーディングブリッジ整備事業

2 新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」（令和7年夏頃就航予定）について

○船籍が「横浜港」に決定

○これまで飛鳥クルーズが培ってきた日本船ならではのおもてなしと上質なサービスを提供
○カーボンニュートラルをコンセプトとして、日本のクルーズ船で初めてLNG燃料や陸上電力受電装置を採用

○「飛鳥Ⅲ」就航後は、現在運航している「飛鳥Ⅱ」と2隻体制で運航予定



「飛鳥Ⅲ」船体及び船内イメージ（写真提供：郵船クルーズ株式会社）